

平成26年度の学会賞の授与について

第33回日本自然災害学会学術講演会が平成26年9月24～25日に、鹿児島県鹿児島市の鹿児島大学に於いて開催され、9月25日（木）に開かれた総会の中で、学会賞の授賞式が行われた。日本自然災害学会の学会賞として、功績賞、学術賞、国際賞が設けられている。

学術賞は、山本晴彦氏（山口大学）に授与された。功績賞、国際賞に該当はなかった。



山本 晴彦

学術賞

受賞者：山口大学農学部 山本 晴彦
学術賞名：2013年台風26号により伊豆大島で発生した豪雨と土砂災害の特徴
2012年7月大分県北部で発生した豪雨と洪水災害の特徴
2009年台風9号により8月9日に兵庫県佐用町で発生した豪雨の特徴と洪水災害の概要
掲載誌：「自然災害科学」Vol.32, No.4, 2014, pp337-352,
Vol.32, No.3, 2013, pp233-248, Vol.30, No.4, 2012,
pp421-439

受賞理由

豪雨による被害を軽減するためには、豪雨や洪水氾濫・土砂氾濫の特徴やメカニズムを解明するだけでは不十分で、豪雨や水害発生時間経過や特徴と、警戒レベルの把握や避難が如何に行われたか、不備な点は何か、どう改善すべきか、ということ念頭において現地調査等を行い、得られたデータの分析を通して、具体的な防災対策や減災対策を考察し提案することが重要である。山本晴彦氏は常にこれらのことを念頭に置いて現地調査を実施し、調査対象とする災害事例で観測されたデータや被害発生の特徴が、既往類似災害事例の中でどのように位置づけられるかを徹底的に考察している。

受賞対象となった伊豆大島の土砂災害調査報告、大分北部での洪水災害調査報告、および兵庫県佐用町での洪水災害の調査報告において、噴火災害だけでなく土砂災害に対する防災計画の必要性、これまで経験してきた土砂災害の教訓を活かすことの重要性、降雨情報を避難に活かす体制の必要性、地域住民との協働で防災対策をまとめる中でのコミュニティの防災力向上の必要性な

ど、洪水・土砂災害に対する防災・減災に向けたソフト面の整備と活用の重要性を具体的に指摘しており、この業績は豪雨災害の防止・軽減に大きく寄与するものと評価される。よって、日本自然災害学会の学術賞に値するものと判断された。

学術賞受賞コメント

この度は、栄誉ある日本自然災害学会学会賞（学術賞）を賜ることができて、大変嬉しく思っています。受賞対象の業績に対しまして、ご推薦ならびにご選考を頂きました先生方に厚く御礼を申し上げます。

私が気象災害の研究を行うきっかけとなったのは、1991年9月に猛威を振るった台風19号にさかのぼります。当時は、農林水産省の九州農業試験場（現在の九州沖縄農業研究センター）の研究員として、農作物の強風被害や有明海干拓地の潮風害を調査したのが最初でした。その後、1993年は全国的な冷夏で、九州地方は台風や梅雨前線により強風・豪雨災害が発生しました。その現地調査の報告は、恩師の九州大学名誉教授の鈴木義則先生のご指導により、「自然災害科学」の「1993年の

異常気象による西日本の農業災害 (Vol.14, No.1, 1995)」として掲載され、本学会での研究活動の起点となりました。

それから約20年が経ちましたが、1990年代の中頃は気象災害が比較的少なかった時期でしたが、1997年からは毎年のように豪雨や台風災害が頻発し、1999年は台風18号により高潮災害が有明海や周防灘で発生しました。21世紀に入り、さらにこの傾向は高まりを見せ、私も多くの災害調査を実施し、地道ではありますが「自然災害科学」に約30編の報告や短報・速報等を掲載させていただくことができました。また、平成26年度には科学研究費補助金の研究成果公開促進費(学術図書)に採択され、『平成の風水害－地域防災力の向上を目指して』を出版することができました。

この度の受賞対象となった業績は、その中の、2009年の兵庫県佐用豪雨、2012年の九州北部豪雨、2013年の伊豆大島土砂災害で、いずれも地域性を有する特徴ある災害であります。本年(2014年)に発生した気象災害をみると、8月の丹沢湖(神奈川県)の水難事故、9月の京都北部豪雨と広島土石流災害などは、近年では1999年6月(広島)・8月(丹沢)、2004年10月(広島)にも起きており、1999年の二つの災害については「自然災害科学」にも掲載されています。「天災は忘れた頃

にやってくる」は、戦前の日本の物理学者、随筆家、俳人である寺田寅彦の言葉であるとされています。しかし、近年は忘れることなく災害が発生する時代が来ていると実感されるほど、日本各地で気象災害が頻発しています。

防災研究者は、地域の防災力を高めるためのどのような貢献が出来るか?が、一つの社会的使命と思っています。平成25年度から実施している文部科学省の地域防災対策支援研究プロジェクト「風水害の防災・減災を目指した研究成果活用の協働推進」では事業責任者、本年9月に採択された日本学術振興会の科学研究費補助金(特別研究促進費)「2014年8月豪雨により広島市で発生した土石流災害の実態解明と防災対策に関する研究」では研究代表者、さらに本年度から自然災害研究協議会中国地区部会長も務めており、本学術賞の受賞を重く受け止め、さらに研究にまい進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本研究に対しましてご助言・ご指導を頂きました山口大学を始めとする多くの関係諸氏の皆様には、この場を借りまして厚くお礼を申し上げますと共に、今後ともご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(山本晴彦)